オピオイド誘発性の腸機能障害

山口　重樹* Shigeki Yamaguchi　高薄　敏史 Toshihumi Takasusuki
佐藤　雄也 Yuya Sato　安島　崇晃 Takaaki Ajima
獨協医科大学医学部麻酔科学講座（主任教授*）
Donald R Taylor
Comprehensive Pain Care, P.C. Pain Management,
Clinical Research and Office Based Opioid Addiction Treatment, us

オピオイド誘発性腸機能障害（OIBD）とは，消化管のオピオイド受容体がオピオイド鎮痛薬によって長期に継続刺激されることによる消化管運動の慢性的な障害で，オピオイド誘発性便秘（OIC）を端にさまざまな消化器症状を呈する一連の病態である。OIBDは患者の生活の質を低下させるのみならず，痛みの管理も不安定化する可能性がある。オピオイド治療中は，OIBDへの移行を未然に防ぐためにOICへの適切な観察と管理が必要とされる。

はじめに

わが国においても，非がん性疾患に使用可能なオピオイド鎮痛薬が増えるとともに，社会における慢性疼痛への関心の高まりから，がん性疼痛のみならず非がん性慢性疼痛へのオピオイド治療が普及しつつある。そのことに伴って，一般的に知られている眠気，悪心・嘔吐，便秘といったオピオイド鎮痛薬の副作用以外に，長期オピオイド治療に伴うオピオイド誘発性の腸機能障害，性腺機能障害，痛覚過敏（鎮痛耐性），免疫異常，認知機能障害など新たな問題に患者が曝される可能性が高まりつつある[1]。本稿では，長期オピオイド治療に伴う問題の一つであるオピオイド誘発性腸機能障害（opioid induced bowel dysfunction；OIBD）に述べる。

OIBD とは

消化管のオピオイド受容体がオピオイド鎮痛薬によって長期に継続刺激されることによる消化管運動の慢性的な障害で，単なる便秘のみならず図 1 に示すさまざまな消化器症状を呈する一連の病態がOIBDである[2]。その病態の中心は，オピオイド誘発性便秘（opioid induced constipation；OIC）であり，患者のQOLを著しく低下させる可能性がある。そのため，がん性，非がん性のいずれの疾患に対するオピオイド治療にかかわる処方医は，その病態と対処方法について熟知する必要がある。

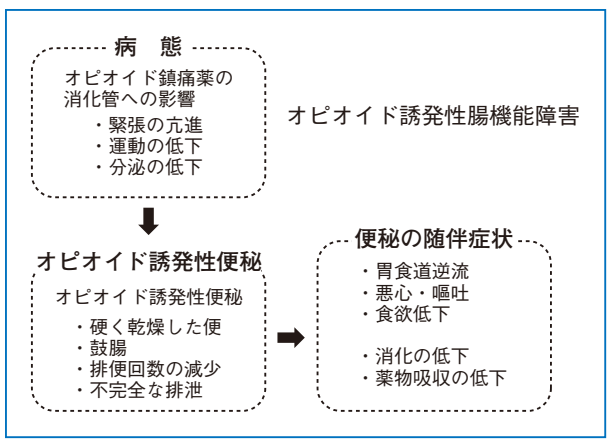

図 1　オピオイド誘発性腸機能障害の概念

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.